



申1号 誰もが鉄道の安全を創り出し、 安心して働くことが出来る職場を求める 申し入れ 提出！

2023年7月15日、輸送サービス労組八王子地本は「第5回定期大会」を開催し、誰もが「働きがい」「生きがい」「生活・こころの豊かさ」を実感できる職場の労働環境を創り出すことを確認してきました。

大会の中では「職場では事故・事象が止まらず、当事者だけの問題にされている」「命の危機を感じる事象が続いている」「中央線12両化工事に伴う夜間工事の遅延により輸送障害が複数発生している」「事故・事象について社員個々の能力頼み状態である」等、職場では安全風土をつくる為の教育が不十分であり「安全性・専門性」について語れない風土が蔓延していると発言がされました。

私たち鉄道事業者は公共交通機関の使命を果たす為に、系統を超えたグループ会社との連携や地域の皆さまの協力が重要であります。「安全性」「専門性」を重視した教育にて安全文化の再構築していく事が「働きがい」「生きがい」「生活・こころの豊かさ」を実感できる労働環境を実現させていくことが必要です。

したがって下記の通り申し入れました。

1. 八高線で発生した乗務員室に関係者ではない者が乗車した事象を受け、乗務員の命を守り安心して働くことができる労働環境の確保と、お客さまが安全で安心できる輸送サービスを提供する為に、乗務員室に業務及び移動等で乗務する社員・関係者への統一した教育を行い、再発防止に向けた具体策を示すこと。
2. 6月27日に発生した高尾駅構内での工事用車両の手歯止め撤去失念に伴う入区車両との衝撃、6月29日に発生した高尾駅構内での転てつ器が反位状態のまま軌陸車を移動させ脱線した事により輸送障害が発生等、夜間工事の遅延による輸送障害が複数発生しているが、グループ会社の現状とこのような事象が繰り返し発生する原因と再発防止策について具体的に示すこと。
3. 沿線の倒木や倒竹等による輸送障害が後を絶たない。社員やお客さまの安全確保と安定した輸送サービス提供の為に、原因と再発防止策を具体的に示すこと。また、これまでも団体交渉等で繰り返し再発防止に向けた議論をしてきたが、同事象の発生を根絶できていない根本原因と実施している再発防止策の進捗状況を示すこと。
4. 鹿や猪等の動物との衝撃による輸送障害が後を絶たない。社員とお客さまの安全確保と安定した輸送サービス提供のため原因と再発防止策を具体的に示すこと。また、これまでも団体交渉等で繰り返し再発防止に向けた議論をしているが、同事象の発生を根絶できない根本原因と実施している再発防止策の進捗状況を示すこと。
5. ジョブローテーション・統括センター化等、会社施策による人事異動により要員が逼迫している職場が複数ある。今後の具体的な解決策を示すこと。